

理解度&釣れる度100%

丸

マルキュー

優良 餌本



実寸大
エサ付け
&
オモリ
解説付き

サエハラ パワーブック

POWER BOOK

2011

冬春



Contents

02 誰でも釣れる超簡単バラケ①メーター

04 誰でも釣れる超簡単バラケ②チョーテン

06 誰でも釣れる超簡単バラケ③段底

08 ウドンセットの浅ダナ釣り

12 ウドンセットのチョーテン釣り

18 バラグルセットの宙釣り

21 バラグルセットの底釣り

24 両グルテンの宙釣り

26 両ダンゴの底釣り

29 両グルテンの底釣り

32 段差の底釣り



●バラケエサ

**持たせやすいので誰でも使える！
手直しも簡単で、とても使いやすい!!**



**粒戦 100cc + 水 200cc +
セット専用バラケ 200cc +
パウダーベイトスーパーセット 600cc**

●作り方

「粒戦」に水を入れてしばらく放置したあと「セット専用バラケ」と「パウダーベイトスーパーセット」を入れて、よくかき混ぜるだけ。あまり練らないようにして、全体に水がナジんでから使う。

●特徴

「パウダーベイトスーパーセット」をベースにすることでネバリがありつつもバラけるので、持たせやすくバラケ性も充分ある。軽く丸めてエサ付けするだけで充分持つので使いやすい。「粒戦」と「セット専用バラケ」の効果で下方向のバラケ性もあり、ウズリにくくもなっている。

●使い方のコツ

3分の1程度を小分けして、打ち始めはボソのまま使う。カラツンが多いようなら手水で軟らかくし、ネバリが強くなれば基エサを足していく。この繰り返しで、サワリやアタリが多くでるタッチを探っていく。

●超簡単手直し方法

このエサでアタリが少ないときは、エサ付けを大きくしてみる。それでもダメなら、「セット専用バラケ」を400ccにして「パウダーベイトスーパーセット」を400ccにする。これで、縦方向にバラケやすくなる。

また、魚の活性が低く、バラケに近づかないようなときは、「粒戦」の量を半分にした配合にしてみる。エサをいじりすぎるとネバリが強くなりカラツンになったり、アタリがでなくなったりするので、いつでもボソ感が残っている状態で使いたい。

●アタリが少ないときに効く派生ブレンド

**粒戦 100 cc + 水 200 cc + セット専用バラケ 400 cc +
パウダーベイトスーパーセット 400 cc**

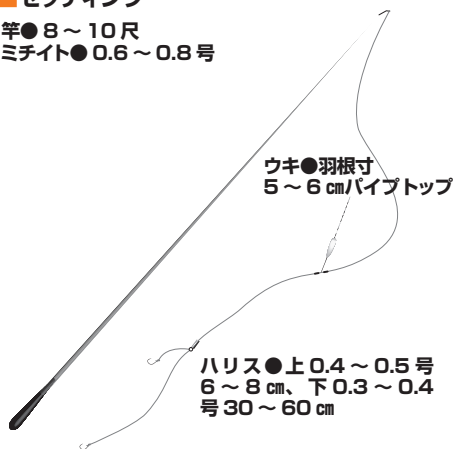
●活性が低くバラケエサに近づかないときに効く派生ブレンド

**粒戦 50 cc + 水 200 cc + セット専用バラケ 200 cc +
パウダーベイトスーパーセット 600 cc**

※エサが軟らかいと感じるようなら麩エサを山盛りにして作る。

■セッティング

竿●8～10尺
ミチイト●0.6～0.8号



ハリ●上6～7号、下4号

コントロールしやすい短めの竿で桟橋に近い魚をねらっていく。ゴム管やヨリモドシ、スイベルなどは小さめにしてシンプルに。ウキのトップはバラケを支えられる程度の浮力が必要なので、あまり細くないもの（中太～細程度）が使いやすい。トップ3分の2程度が水面に出るようにエサ落ちを設定（カラバリ）すると釣しやすい（全7目なら5目出し）。

●くわせエサ

**魚信1分封 + 水70～80cc
感嘆 20cc + 水35～40cc**

くわせエサは色々な種類を用意したほうがよい。活性に合わせて「力玉」、「力玉大粒」、「感嘆」、「魚信」を使い分けるが、活性が低ければ軽い「力玉」、高ければ「魚信」とする。くわせエサはとにかくハリに付いていることが大切なので、その点を注意して釣りたい。「感嘆」や「魚信」はアタリが多いときは水を少なく硬めて、渋いときは軟らかめが基本。



●オモリ 実寸大

0.25mm厚板オモリ
8mm×17mm～12mm×17mm



●バラケエサ

適度なネバリによるまとまりで
持たせやすい!

タナでの膨らみとアピールも充分!!



+



+



+



**粒戦 50cc + 水 100cc +
セット専用バラケ 100cc +
ペレ軽 300cc**

●作り方

「粒戦」に水を入れて5～6分放置。そのあとに「セット専用バラケ」と「ペレ軽」を入れて、大きくかき混ぜる。全体にエアーが含まれボソツとした仕上がり。これを基エサとして使う。

●特徴

ベースになるのは「ペレ軽」で、適度なネバリでエサをまとめてくれる。「セット専用バラケ」はタナでの膨らみがあり、膨らむと同時に「粒戦」が落下しアピールする。さらに強いアピールとボソツ気をだすときには「粒戦」を100ccにする。

●使い方のコツ

基エサを半分に小分けにして、手水を打ちながらナジミ幅を探る。基本はしっかりと4～5目盛ナジむようにすることがコツ。ボソが強過ぎるとエサのまとまりが悪くなり、落下中の開きが大きくなってウワズリを招きやすいので、手水を打ちながら大きくかき混ぜ、「ペレ軽」のネバリがでてまとまるようにする。反対にネバリが出過ぎたときには、基エサを合体して調整する。

●超簡単手直し方法

エサを持たせるときには、①押し練りでエアーを抜く。②数回練りを加える。③重いエサを加える。などの対応がある。一番簡単にできる方法は押し練りで、エアーを抜くことだけでウキを沈没させるまで入れることもできる。次は数回練りを加えることで、このときには手水を打ちながら練ることでネバリと重さがつくようになる。最後は重さのある麩材を振りかけながら差し込んでいく方法で「ダンゴの底釣り夏」や「粒戦細粒」を使用する。この3種類の方法でエサは持たせることができる。

逆に沈没してウキの返しが悪いときには、①手水を打って柔らかくする。②基エサを差し込んでエアーを含ませる。③軽い素材の麩材を加える方法が良い。考え方は、持たせるときと逆に、これだけの対応でもエサは簡単にそして自在にコントロールできるようになる。

■セッティング

竿●8～12尺
ミチイト●0.8号

ウキ●羽根寸8～12cm
パイプ&ムクトップ

ハリス●上0.5号8
～12cm、下0.4号
35～60cm

ハリ●上6～8号、下3～5

下ハリスのオモリ絡みを少なくすることが肝心で、そのためには「スイッチシンカー」などを装着すると良い。また、上ハリスは0.5号、下ハリスを0.4号というように号数を変えるとハリスの張りが異なるため絡みづらくなる。ミチイトは厳寒期や流れが強いときなどはワンランク細くして対処する。

●オモリ 実寸大

「絡み止め
スイッチシンカー」0.5g +
0.25mm厚板オモリ
8mm×17mm



●くわせエサ

魚信1分封+水65～70cc

感嘆10cc+水20cc

力玉大粒&力玉



「魚信」は1分封に水65～70ccを入れて鍋で炊きポンプに入れて冷水に絞り出す。同様にレンジで加熱させる方法もあり、その場合はカップに入れて30秒レンジにかけ、次も30秒、最後はカップの上部まで盛り上がるまで待ち、へらで30～40回練ればコシのあるうどんができる。後は冷水に絞り「特選わらび職人」などに漬けて保存する。

「感嘆」は10ccに水20ccを入れてシェイクする。固まってからは指で20～30回練り、エアーを抜くようにする。「魚信」よりも軽くくわせエサになり食い渋り時には効果的になる。

「力玉」はそのまま使えるくわせエサで、通常は「力玉大粒」でよい。食いが悪いときには普通サイズを使用し、さなぎ粉を絡ませた「力玉のさなぎ漬け」も厳寒期には威力を発揮する。

●バラケエサ

ブレンドに迷わない! バラケ性・重さ・
まとまりをすべて持ち合わせた
「段底」をシンプルに単品で使おう!!



+



段底800cc + 水200cc

●作り方

「段底」を計量カップで正確に測り、水を入れ全体に水がゆきわたるように指を立てて熊手状にして混ぜる。途中でエサの底をひっくり返すようにしてかき混ぜると全体が均一に混ざる。決して練らないこと。エアーを含んだ状態で仕上げる。

●特徴

段差の底釣りはバラケエサが下方方向にバラけることが必要。「段底」にはペレットの粒が配合されているので、単品でも段差の底釣りに必要な重さがある。また、まとまりもよく、ハリ付けの際の圧の掛け具合、付け方により自由が効くバラケである。

●使い方のコツ

段差の底釣りは下バリと上バリの差を大きくとる。底に定着しているのは下バリだけとなるので、ウワズリも起こりやすいのでウキはしっかりとナジませることが必要で、バラケの大きさは人差指頭大から、親指頭大くらいをウキのトップにナジミがでるようにハリ付ける。使う分だけを小分けして使うとよい。

●超簡単手直し方法

バラケエサの付け方で調整するのが基本。バラケエサを持たせたいときはハリ付けを丁寧に圧を強めに調整しながら付ける。バラケ性を必要とするときはチモトをギュッと抑えて角張らした付け方をするのがよい。

ウキをしっかりナジませてから、へら鮒が反応してウキが返ってくるのが基本だが、ウキの返りが悪いときは小分けしたエサに手水を加えて、少し柔らかくして様子を見る。

ウワズリ気味になったときはバラケを小さくしっかりと付け、じわじわとウキが上がるようにする。また、縦バラケを増すことによりウワズリを防げるので、そのときは「セット専用バラケ」200 cc + 「段底」600 cc + 水 200 cc で作り変えるのもよい。また、「粒戦」を加えると重さが付き、ウワズリを防ぐことができる。

●縦バラケを強調して
ウワズリを防ぐ派生ブレンド

セット専用バラケ 200cc +
段底 600cc + 水 200cc



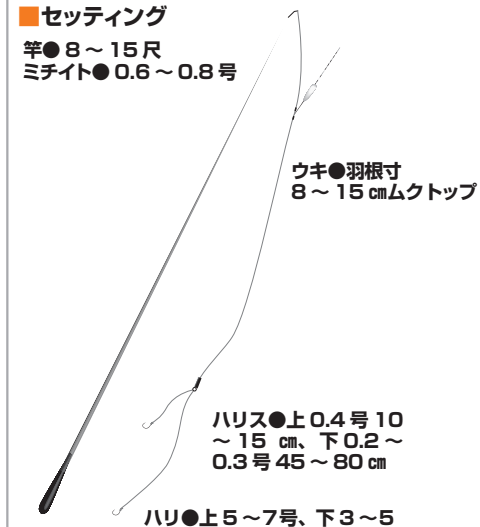
■セッティング

竿●8～15尺
ミチイト●0.6～0.8号

ウキ●羽根寸
8～15 cm ムクトップ

ハリス●上 0.4号 10
～15 cm、下 0.2～
0.3号 45～80 cm

ハリ●上 5～7号、下 3～5



風でウキがながされないようにチョーチンスタイルで底が取れる竿を選びたい。底を測るときはウキの立つ位置の奥、手前左右と約 50 cm 四方を充分に測り、底の状態を知ることが大切。底釣りの場合は、ウキの位置が変わると釣れなくなるので、底の印となるトンボと、ウキ止めはしっかりと付けること。

●くわせエサ

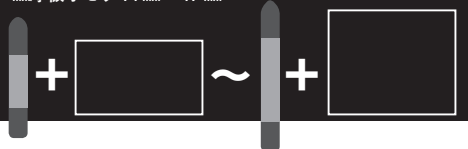
魚信1分封 + 水 80cc

メインとなるくわせエサは「魚信」。1分封に対し水 80 cc で電子レンジで作り、現場でポンプ出して使う。こうすると、ポンプから絞り出すときに大きさに変化を付けられるのでよい。この他、くわせエサを変えるだけで、アタリが増えることもあるので「力玉」や「力玉大粒」、「感嘆」も用意しておきたい。



●オモリ 実寸大

「絡み止めスイッチシンカー」0.5g + 0.25 mm 厚板オモリ 10 mm × 17 mm ~ 「絡み止めスイッチシンカー」0.8g + 0.25 mm 厚板オモリ 14 mm × 17 mm



ウドンセットの浅ダナ釣り①

●タナにバラケを溜めて釣るボソ系
粒戦100cc＋とろスイミー50cc＋
水200cc＋セット専用バラケ200cc＋
GTS200cc＋軽麩200cc＋新B200cc



●作り方

「粒戦」と「とろスイミー」を水で先に溶いておき、しばらくおいてから残りの麩をいれて全体をよくかき混ぜる。

●特徴

ブワッと開くような感じではなく、膨らみながら開くタイプのエサ。「新B」のさなぎが強いので集魚力も高く寄せ負けすることないエサ。

●使い方のコツ

できあがり硬めのボソで、手水で少しずつ軟らかくしながら正解のタッチを探って釣っていく。持たせこるともできるし、抜き気味もできるので、対応できる釣り方の幅は広い。

手直しのポイント①

ウキが動きすぎるとき

①別作りの「粒戦」を足してみよう！

別のボウルや容器に「粒戦」100cc + 水 100cc を作っておき、それをひとつかみほど入れて様子を見ていこう。これをしばらく打っていくと、「粒戦」の効果が表れ、ウキの動きがおとなしくなるだろう。



これをしばらく打っていくと、「粒戦」の効果が表れ、ウキの動きがおとなしくなるだろう。

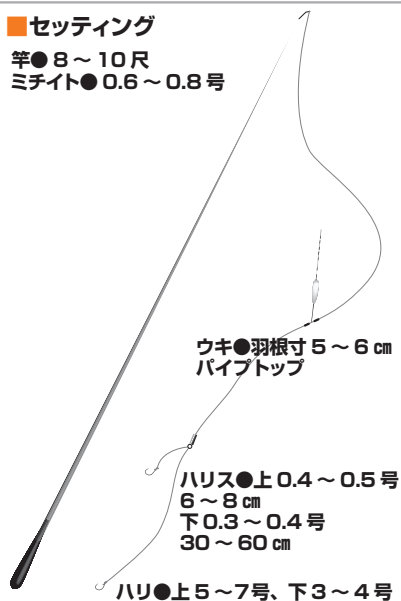
②開きすぎなら「BB フラッシュ」か「パウダーベイトスーパーセット」を振りかけてみる

エサが開きすぎているためにへら鮒がはしゃいでしまったり余計なウキの動きがでてしまうときは、バラケエサの開きを抑えたい。そんなときは使っているエサに「BB フラッシュ」か「パウダーベイトスーパーセット」をパラパラと入れてみる。どちらもエサをまとめる効果があり、とくに着水からの開きを抑える。



■セッティング

竿●8～10R
ミチイト●0.6～0.8号



●オモリ 実寸大



0.25mm厚板オモリ

8mm×17mm～12mm×17mm

手直しのポイント②

サワリもアタリも少ないとき

①「粒戦」の量を少なくしてみよう！

混雑時や厳寒期で極端に活性が下がると、へら鮒はバラケの芯へ近づかずに遠巻きになりやすい。すると、サワリやアタリが少なくなる。そんなときは、「粒戦」の量を減らして（半分の50cc）、下方向へいきすぎないようにする。

②「新B」を「バラケマッハ」に変えてみよう！

「新B」を「バラケマッハ」に変えて細かいバラケにしてみる。こうするとバラケの拡散範囲が狭まり、遠巻きを防ぐ効果がある。



最初は①だけ、または②だけ試してみて、それでも効果が薄ければ①と②を複合してみよう。

粒戦 50cc + とろスイミー 50cc +
水 200cc + セット専用バラケ 200cc +
GTS 200cc + 軽麩 200cc +
バラケマッハ 200cc

ウドンセットの浅ダナ釣り②

●タナで反応させて食わせるしっとり系
粒戦100cc + とろスイミー50cc +
パワー・X100cc + 水200cc + セット
専用バラケ200cc + GTS200cc +
パウダーベイトスーパーセット200cc



●作り方

「粒戦」、「とろスイミー」、「パワー・X」を水で先に溶いておき、しばらくおいてから残りの麩を入れて全体をよくかき混ぜる。

●特徴

広範囲に多く寄せ、タナにいる食い気のあるへら鮒を釣っていきける。

●使い方のコツ

一旦ナジませてから釣るイメージで、基エサから打っていく。できあがりには硬めのボソで、軟らかくしたり、エサの大きさに対応しながら、バラケエサが抜けるタイミングを探っていく。

手直しのポイント

厳寒期など渋いとき

① 「パワー・X」を抜いて「セット専用バラケ」を増やす。

粒戦 100 cc+とろスイミー 50 cc+水 200 cc+セット専用バラケ 300 cc+
GTS200 cc+パウダーベイトスーパーセット 200 cc



② 「パワー・X」を「バラケマッハ」に変えてみる。

粒戦 100 cc+とろスイミー 50 cc+水 200 cc+セット専用バラケ 200 cc+
GTS200 cc+パウダーベイトスーパーセット 200 cc+バラケマッハ 100 cc

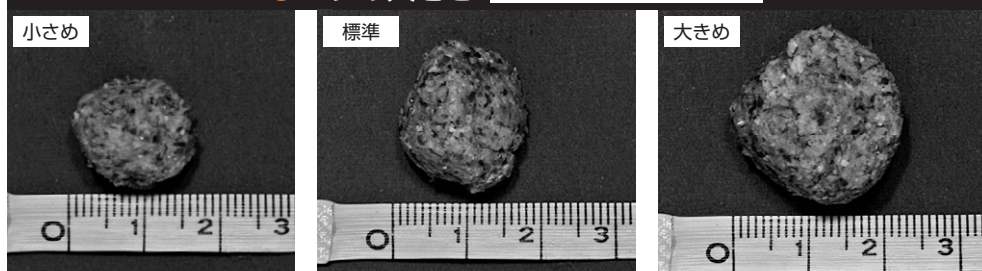


渋いときはバラケの拡散が多すぎると遠巻きに寄せることになるので、バラケ性の強い「パワー・X」を抜き、「セット専用バラケ」か、「バラケマッハ」と入れ替える。①も②もバラケの拡散を減らすというねらいは同じである。

● ボソ系・しっとり系の使い分け

池の傾向やその日の活性に合わせるために、ボソ系かしっとり系を打ってみて、どちらがいいかを判断したほうが、釣りが分かりやすい。ボソのほうは、タナにバラケを溜めておいて釣る感じで、しっとりはタナで反応させて食わせるイメージ。

● エサの大きさ ボソ系・しっとり系共通実寸大



ウドンセットのチョーチン釣り①

●活性があるとき向きブレンド

粒戦100cc + とろスイミー50cc +
水200cc + セット専用バラケ400cc +
段底200cc + GTS200cc



●作り方

「粒戦」と「とろスイミー」に水を入れて混ぜ、5～6分放置する。そこへ残りの麩エサを入れて大きくかき混ぜる。エアを含んだボソっとしたタッチに仕上げる。

●特徴

「セット専用バラケ」はタナで膨らみエサを開かせる。「段底」は縦系に抜けるエサでウズリを抑え、「GTS」はエサ全体のまとまりで練ればネバリがでて持つエサになる。さらに「粒戦」は膨らみ始めるエサからポロポロと抜け、「とろスイミー」は粘着剤の役割でエサ割れを防ぐ効果がある。

●使い方のコツ

ネバる素材が入っているので必ず3分の1ほど小分けにして使うこと。まずはナジミ幅がでるようにエサ付けし、タナに入ってからすぐに抜けるようなバラケではなく、1回は深く沈没するくらいにしたい。膨らみが足りなくてウキの戻りが悪いときには手水を打って「セット専用バラケ」を差し込んでいくとよい。

手直しのポイント①

混雑時など寄せを重視したいなら

「段底」を「パワー・X」に変えてみよう！

粒戦 100 cc+とろスイミー 50 cc+パワー・X200 cc+水 200 cc+
セット専用バラケ 400 cc+ GTS200 cc



混雑時など寄せることが必要なときは「段底」の代わりに「パワー・X」をブレンドする。こうすると弾力のあるバラケエサに仕上がりが、水中で吸水後に大きく膨らみバラケ始めるので集魚性も高く、隙間から「粒戦」が抜け落ちアピールも強くなる。この1品でウキの動きも大きく変わる。

硬さでエサを持たせたほうが良いときはボソのエサに圧を強く加えてエアーを抜いてエサ付け。反対にしっとりリヤワで持たすときは手水を打ってから指先にネバリを感じるまでかき混ぜる。これでエサ持ちが悪くなったら「粒戦細粒」を振りかけながら差し込んでいく。



手直しのポイント②

小エサが良いとき

「GTS」を「パウダーベイトスーパーセット」に変えてみよう！

粒戦 100 cc+とろスイミー 50 cc+水 200 cc+セット専用バラケ 400 cc +
段底 200 cc+パウダーベイトスーパーセット 200 cc



バラケエサが小さくないとアタらない地合のとき、ただ単にエサを小さくするだけではエサ持ちに不安が生じることもある。そんなときは「パウダーベイトスーパーセット」を入れることでエサ全体のネバリ感がでて、エサ持ちが良くなるので、小エサで持たしたいときに効果的。

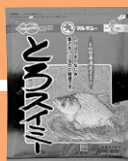


※セッティングとオモリ量は5ページ参照

ウドンセットのチョーチン釣り②

● 厳寒期向きブレンド

粒戦50cc + とろスイミー50cc +
水200cc + セット専用バラケ200cc +
プログラム200cc + 軽麩200cc



● 作り方

「粒戦」と「とろスイミー」に水を入れて混ぜ、5～6分放置する。そこへ残りの麩エサを入れて大きくかき混ぜる。しっとりヤワでボソツ気が残り、エアーを含んでいるエサに仕上がる。

● 特徴

「セット専用バラケ」はタナで膨らみバラケ性を促進させる。「プログラム」はエサ全体をまとめ、ハリ付しやすいタッチがでる。「軽麩」は余分な水分を吸収して、タナで細かく糸を引くように抜けていく効果がある。その間にエサの隙間から「粒戦」が落下してくわせのウドンにかぶり一気に吸い込むようになる。「とろスイミー」はエサ全体のネバリと微調整する際の粘着性が強くエサ割れを防ぐ。

● 使い方のコツ

スタートは小分けにしたエサに手水を打って大きくかき混ぜながらしっとりネバにしてタナまで待たせていく。ここでまだエサ持ちが悪いときには「粒戦細粒」を振りかけて、同様に大きくかき混ぜエサに重さとネバリを加える。ネバリが出過ぎたら手水を打って「セット専用バラケ」を振りかけて押し込み、開きを良くする

手直しのポイント①

ボソッ気を強くして、集魚性を高める

「軽麩」を「底バラ」に変えてみよう！

粒戦 100 cc + utorosui 50 cc + 水 200 cc + セット専用バラケ 200 cc +
プログラム 200 cc + 底バラ 200 cc



「底バラ」は大量のさなぎ粉が入っているためセットの釣りには有効で、集魚性とタナでの膨らみが良くネバリも抑えられる。細かいさなぎ粉が「粒戦」と時間差で落下するためアピール効果も高くなる。

基エサはまとまりにくいタッチになるので、手水を打ちながらしっとりネバにしていく。エサ抜けが早いときは、「粒戦細粒」を振りかけて硬さを調整するか、「パウダーベイトスーパーセット」を振りかけて差し込み、エサのつながりを良くしネバリを持たす。



手直しのポイント②

しっかりタナを作りたいとき

「プログラム」を「新B」に変えてみよう！

粒戦 100 cc + utorosui 50 cc + 水 200 cc + セット専用バラケ 200 cc +
新B 200 cc + 軽麩 200 cc



「新B」の硬い麩がボソッ気をだしエアーを含んだエサに仕上がる。また、手水を打ちながらかき混ぜることでネバリがでてエサ持ちが良くなる。バラケ性が強くなるうえに「新B」のさなぎ粉の寄せ効果でタナが作れる。



※セッティングとオモリ量は5ページ参照

うどんセットのチョーチン釣り③

●縦サソイ向きブレンド

粒戦50cc＋粒戦細粒50cc＋
とろスイミー50cc＋水200cc＋
セット専用バラケ200cc＋段底200cc＋
プログラム200cc



●作り方

「粒戦」、「粒戦細粒」、「とろスイミー」に水を入れて混ぜ、10分ほど放置する。そこへ残りの麩エサを入れて大きくかき混ぜる。このときに練らないようにするのがコツ。

●特徴

「粒戦細粒」が入っていることからネバリと重さのついたバラケエサに仕上がる。硬めでボソッ気がありまとまりにくいタッチに仕上がっている。

●使い方のコツ

エサが抜けてしまえば縦サソイの効果もなくなるので、エアーを抜きながら強めにハリ付してエサ割れを防ぐ。さらにボソッ気が必要なときには「バラケマッハ」か「スーパーダンゴ」を振りかけて硬くする。重さをつける場合には「粒戦細粒」が効果的で集魚性も高くなる。

縦サソイを連続させて食わせるとき

① 「プログラム」を「パワー・X」に変えてみよう！

粒戦 50 cc + 粒戦細粒 50 cc + とろスイミー 50 cc + パワー・X 200 cc + 水 200 cc + セット専用バラケ 200 cc + 段底 200 cc

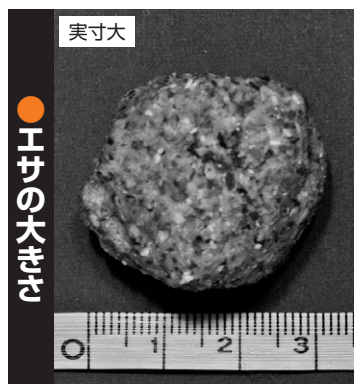


「パワー・X」をブレンドすることで、硬ボソで腰のあるバラケエサに仕上がる。タナに入って吸水してからの開きは強く、集魚性はすこぶる高い。硬ボソのまま使用するのが良いが、エサの開きが早過ぎる場合には手水を打ってしっとり気味にしてから「粒戦細粒」を振りかけて微調整する。



② 「段底」を「新B」に変えてみよう！

粒戦 50 cc + 粒戦細粒 50 cc + とろスイミー 50 cc + 水 200 cc + セット専用バラケ 200 cc + 新 B 200 cc + プログラム 200 cc



「新B」をブレンドすることで芯残りの良いエサになり、縦サソイを連続させる釣りに良い。また集魚効果も高まる。さらに、硬めの素材が入っていることでバラケ方に変化があるのでタナでのアピールが強くなる。

バラグルセットの宙釣り

●野釣り場のチョーチン釣り用バラケエサ
新B400cc＋バラケマツハ200cc＋
段差バラケ200cc＋
BBフラッシュ200cc＋水200cc



●作り方

すべての魅をボウルに入れ、そこへ水を入れてかき混ぜる一緒練り。エアー含んだボンに仕上げる。

●特徴

さなぎが多く配合されて集魚効果の高い「新B」を中心に、「バラケマツハ」、「段差バラケ」と寄せ効果の強いエサの代表である3つをブレンド。「BBフラッシュ」でまとめやすさを演出している。

●使い方のコツ

タナへ集めたいので、しっかりナジませるようにする。小さめ（1.5 cm程度）に丸めたエサにさらにエサを付け足して形を整えると芯もできてタナで持つエサになる。このときハリをしっかりセンター入れること。

ウキが沈没する場合はエサ付けの圧や大きさに対応するが、難しければオモリを切ればよい。ただ単純に寄せてやろうとバンバン打つのは要注意。気づかないうちにウワズってしまう。エサ持ちが悪い場合、もっとエサを硬くして持たせるなら「BBフラッシュ」を足していく。

●管理釣り場の沖打ち用バラケエサ ダンゴの底釣り夏200cc+水200cc+ 新B200cc+スーパーダンゴ200cc+ GTS200cc



●作り方

先に「ダンゴの底釣り夏」を水で溶いておき、少し時間をおいてから残りの麩を入れてかき混ぜる。エアーの入ったボツで仕上げる。

●特徴

「ダンゴの底釣り夏」は重さを利用し、「新B」はハリ持ちと集魚力でしっかりとタナを作る。「GTS」はエサ全体をまとめる役目で、ネバリすぎを防ぐために「スーパーダンゴ」を入れてでバラケ性を維持している。

●使い方のコツ

バラゲルはバラケが付いている状態で釣っていくので、しっかりナジませることが大切。だから、ウキにバラケのナジミ幅をきちんとだすこと。大きく付ければ沈没してしまうので、魚の量も考えながら、常に同じナジミ幅になるようなエサの大きさを調整する。さらにグルテンのナジミがでるタイミングでアタリがでるのが理想で、ここでアタリがでないときはエサが持っていないか、ハリスの長さがあってないと考えよう。

ネバってきたと感じたら「白べら」か「もじり」を足していく。そのまま足しても、手水をさして足しても良いが、すべてを一気にいじるのではなく、小出しにして調整していくこと。



● 野釣り場のチョーチン釣り用くわせエサ

わたグル50cc＋
水50～75cc



エサ持ち重視を心がけて水の量を調整しよう。エサの大きさはハリが隠れる大きさから打ち始め、持たないようなら大きくしていく。タッチなどよりとにかくエサ持ちに気を配りたい。

● 管理釣り場の沖打ち用くわせエサ

わたグル50cc＋
水75cc (エサ持ち重視)

グルテンα21 50cc＋
水75cc (エサ持ち重視)

グルテン四季 50cc＋
水50cc (ボソっ気重視)

ターゲットはデカイ魚なので煽りやアタックも強く、落下中に抜けるようではダメ。持たせるには硬さで持たせ、極めて硬いものがないときもあり、粉1に対し水0.8までである。グルテンはフレッシュさがあつたほうがよいので、こまめに作り替えること。



■ 沖打ちのセッティング

竿● 18～21 尺
ミチイト● 0.8～1 号
ウキ● 羽根寸 9～12 cm
パイブトップ
ハリス● 上0.5～0.6号 15 cm
下0.3号 50～80 cm
ハリ● 上6～8号、下4号

■ チョーチンのセッティング

竿● 16～21 尺
ミチイト● 0.8～1 号
ウキ● 羽根寸 12～18 cm
パイブトップ
ハリス● 上0.5～0.6号 15 cm
下0.3号 70～80 cm
ハリ● 上7～8号、下4～5号

● オモリ 実寸大

0.25 mm厚
板オモリ
17 mm × 18 mm～
17 mm × 24 mm

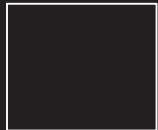


● オモリ 実寸大

「絡み止めスィッチシンカー」0.8
～1.6g + 0.25 mm厚板オモリ 17
mm × 20 mm



+



バラグルセットの底釣り

●底まで持って置いてこれるバラケエサ
ダンゴの底釣り冬100cc＋
ペレ道100cc＋粒戦30cc＋水100cc



●作り方

エサをボウルに入れ、いったん粉の状態できき混ぜる。そこへ水を入れて一気に熊手状で全体に水がいきわたるように仕上げる。エアーを含んだ状態でこれを基エサとする。

●特徴

「ダンゴの底釣り冬」と「ペレ道」がエサのまとまりを良くし、底までしっかり持たすことができる。、しかも「粒戦」と「ペレ道」が配合されているので重さがあり、置きバラケのようになるのでウズリを防ぐ。

●使い方のコツ

基エサのタッチを維持しておくため、使う分だけを小分けして使う。ウキをしっかりとなじませるように、ハリ付けの際に丁寧にエサ付けをする。また、ウキの戻しのスピードも、ハリ付けの際の付け方で調整をする



手直しのポイント①

へら鮎の活性がいい場合

「ペレ底」を追加ブレンドしてみよう！

ダンゴの底釣り冬 100 cc + ペレ底 100 cc +
ペレ道 100 cc + 粒戦 30 cc + 水 180 cc



へら鮎に活性があると、思っている以上にウキが動いたり、ナジミが悪くなることもある。そんなときは「ペレ底」を追加してみよう。「ペレ底」が入ることにより、まとまりと重さが増すので底への落ち着きがよくなり、ウズズリ気味のへら鮎を抑えることができる。

余計な動きを抑えたいので、ハリ付けの際には丁寧にハリ付けをする。それでも無駄な動きがあるようなら、小さくエサ付けをする。逆にバラケ性をよくするには手水で少し軟らかくしてやるとよい。このエサにしながらでも食い気が強いようなら、両ダンゴや両グルテンの釣り変えてゆく。

手直しのポイント②

へら鮎の活性がよくない場合

「バラケマッハ」を追加ブレンドしてみよう！

ダンゴの底釣り冬 100 cc + ペレ道 100 cc +
バラケマッハ 100 cc + 粒戦 30 cc + 水 180 cc



へら鮎の活性が低く、ウキの動きが悪い場合や戻しが悪い場合は、「バラケマッハ」を追加することでバラケ性をよくしてみよう。

ウキのナジミ幅はエサ付けの圧や大ききで調整をするが、ウキに動きがでてからは、バラケ性がよくなっているので、ハリ付け時にウキにしっかりとナジミがでるようにし、ウズズリにも注意すること。これでもウキの動きが悪いようであれば、段差の底釣りにチェンジしよう。

●くわせエサの使い分け

くわせエサのグルテンは、まとまりのよいものと開きのよいものを用意しておき、それを使い分けることにより、へら鮎に食い気を起こさせる。アタリが減ってきたときは、使っているものと違うのを打ってみると意外と効果があるものだ。

●まとまりのよいタイプ わたグル30cc+水45cc



●開きのよいタイプ グルテン四季50cc+水45cc



●作り方と使い方

どちらのタイプのグルテンも粉に水を入れたら全体に水が行き渡るようにすばやく混ぜる（棒状のもので混ぜるとさらによい）。容器は「プライムエリアグルテンボウル」などを使い、粉の分量に対して、均一に水が行き渡るものを使用する。

しばらく放置してから、使う分を小分けしてエアを抜いてエサ付け。また、オカユポンプに詰めて使うと経時変化や乾燥を防げる。



■セッティング

竿●16～21尺
ミチイト●0.8号
ウキ●羽根寸12～16cm
パイプ&ムクトップ



竿の長さはウキの位置ができるだけチョーチンで釣れる長さを選択しよう。ミチイトは伸びが少ないものを使いたいのので、フロロラインがオススメだ。ウキは底釣りタイプかオールマイティータイプで、ナジみと戻しがきちんとできる大きさを使う。また、基本的にはパイプトップが使いやすいが、活性によっては

ムクトップのほうが良いときもあるの、気になるときは試してみよう。

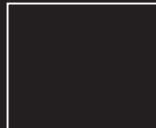
ハリスの段差は5～7cmを基準に、カケアガリがきつい、底の状態が凸凹している場合などは、10～15cm段差にしてみる。ハリはエサが持つことを前提に比較的小さいものを使って食わせることを重視したい。

●オモリ 実寸大

「絡み止めスイッチシンカー」0.8
～1.6g + 0.25mm厚板オモリ 17
mm × 20mm



+



両グルテンの宙釣り

●野釣りのチョーチン向き(持つタイプ)

グルテン四季50cc＋
わたグル 50cc＋水110cc



●作り方

「グルテン四季」と「わたグル」をボウルに入れ、粉のうちによくかき混ぜる。水を加えたら素早くかき混ぜて全体に水分を浸透させてから3分放置する。完全に固まったら掘り起こすようにエアーを絡めてできあがり。

●特徴

開きがよく早いアタリがでる「グルテン四季」と、軽くてハリ持ちのいい「わたグル」の組み合わせ。最近では硬めを小さめにハリ付けする釣り方が主流になっているが、ポンソツとしたタッチで軽くて抜けのいいグルテンは新べら狙いに最適。

●使い方のコツ

チモトをしっかり押さえてハリ付けする。全体を揉むとサワリがでにくくなることもあるのでウキの動きを見ながら調節する。ときにはつまんだエサをハリに刺す感じで付けるのがいい場合もあるので、付け方を工夫してウキを動かしていく。

手直しのポイント

アタリが遅いとき

「わたグル」を「グルテンα21」に変えてみよう！
グルテン四季 50 cc＋グルテン α21 を 50 cc＋水 120 cc



●管理釣り場の沖打ち向き(開くタイプ)

新べらグルテン200cc＋ グルテン四季50cc＋水200cc



●作り方

「新べらグルテン」と「グルテン四季」をボウルに入れ軽く混ぜ合わせ。そこに水を注いで全体を10回ほどかき混ぜて3分ほど放置。完全に固まったらほぐすように混ぜてエアを含ませて完成。

●特徴

マッシュのフレークが大きくバラケ性の優れた「新べらグルテン」とまとまりながらも開きが早い「グルテン四季」で、落下途中からバラけてへら鮎を寄せながら釣ることができる。また抜けが早いのでテンポ良く打ち返す、攻めの釣りが可能。

●使い方のコツ

基エサのままではまとまりが悪いので、小分けして押し練りを数回加える。それを指先で揉み表面を転がして直径2cmほどにハリ付け。エサ持ちがよくない場合はハリ付けのとき、指圧を強くして調整する。

手直しのポイント

釣るタナが深いときや
寄りが多いとき

「グルテン四季」を
「グルテンα21」に
変えてみよう！

新べらグルテン 200 cc＋
グルテンα21 を 50 cc＋
水 250 cc



●オモリ 実寸大



管理釣り場の沖打ちの場合
0.25 mm厚板オモリ 10×17 mm



野釣りのチョーチン釣りの場合
「絡み止めスイッチシンカー」1.6g
＋ 0.25 mm厚板オモリ 17×20 mm

■セッティング

竿● 13～21 尺
ミチイト● 0.8 号
ウキ● 羽根寸 5～20 cm ムクトップ
ハリス● 0.4 号上 30～60 cm
下 40～70 cm
ハリ● 上下 5～7 号

● 実寸大

エサの大きさ



両ダンゴの底釣り

● 食い渋りでもウキが動く軽いタイプ ダンゴの底釣り冬100cc + 水100cc + バラケマツハ100cc



● 作り方

「ダンゴの底釣り冬」を水で溶き、水深が浅ければそれほどかき混ぜずに、水深があれば、30回ほどよくかき混ぜてから「バラケマツハ」を入れる。「バラケマツハ」を入れるタイミングは「ダンゴの底釣り冬」を水で溶いてから5分ほど放置したあとがよい。

● 特徴

「ダンゴの底釣り冬」がエサの芯を作る素材なので、水深が深ければよくまぜて芯を作る。そこへ「バラケマツハ」を足すことによって、膨らみが増し集魚力がアップする。吸い込み重視の軽めのエサで、食い渋り時でもウキを動かしてくれるアピール度の高いブレンドだ。

● 使い方のコツ

このエサは大きさで調整するパターンと、手水で軟らかくして使うパターンがある。持たせ具合は「ダンゴの底釣り冬」か「バラケマツハ」の量で硬さ調整するが、持ちを重視するなら「ダンゴの底釣り冬」、開き重視なら「バラケマツハ」を使うとよい。

手直しのポイント

もっと釣り込みたいとき
硬さ調整を「粒戦細粒」で行なおう！

小分けしたものに「粒戦細粒」を足していく。集魚効果とエサ持ちがよくなる。タナまでのナジミがよくなり重さがアップした分、アタリが持続しやすくなる。



●集魚最強のグルダンゴ

ペレットグルテン100cc＋ ペレ道1袋とつなぎグルテン1袋を 混ぜたもの100cc＋水150cc



●作り方

粉の状態をよく混ぜておき、そこへ水を入れてからも良くかき混ぜる。「ペレットグルテン」の粒状ペレットが吸水するまで充分置いてから使う。

●特徴

「ペレットグルテン」の粒ペレットの集魚に「ペレ道」の集魚効果で寄せることに関しては最高。多くの魚が寄るので持ちが重要で、「つなぎグルテン」がエサ持ちを助けてくれる。硬めでもよし、軟らかくてもよし、練ることができるエサ。

●使い方のコツ

持ちが悪ければエサを練るか、大きく付けるのどちらかで対応。手水で調整することもでき、軟らかいなど感じたら「つなぎグルテン1袋＋ペレ道1袋」を足して硬さを調整する。

手直しのポイント

もっと釣り込みたいとき

「粘力」をブレンドしてみよう!

「粘力」をスプーン1杯入れることで、エサ持ちがアップするのでより軟らかいタッチでの使用ができる。吸い込みが良くなり、カラツン減少、ヒット率アップなど釣れる要素がすべてアップする。もし、粘りが出過ぎたときは「白べら」もしくは「もじり」をさして、エサを回復させる。



● 寄せて食わせられるグルダンゴ

真底 100cc + グルテンα21 100cc + 水 200cc



● 作り方

「真底」と「グルテン α21」をボウルに入れ、粉のままですき混ぜておく。そこへ水を注ぎよくかき混ぜる。固まりだしたら片方に寄せて裏返して使いはじめる。

● 特徴

「真底」には『ウルトラバイト・アルファ』が入っているので、魚の活性があがり食い気が立つ。すると、エサが持っているという条件が必要で、「グルテン α21」がエサ持ちを補助してくれる。寄せて食わせられるブレンドで、ハリ持ちよく煽りなどにも強い。

● 使い方のコツ

手水で押し練りして軟らかくして使っていく。タナまでしっかり持たせることだけに気をつかい、動きが少なければどんどん打ち返す。大エサで寄せてから釣ることもできる。

■ セッティング

竿 ● 13 ~ 21 尺
ミチチ ● 0.8 ~ 1 号

ウキ ● 羽根寸 12 ~ 18 cm
パイプトップ

ハリス ● 0.4 号
上 40 cm、下 45 ~ 48 cm
ハリ ● 上下 5 号

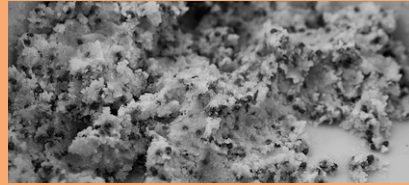
● オモリ 実寸大

竿 18 尺程度の場合
「絡み止めスイッチシンカー」1.2g + 0.25 mm 厚
板オモリ 17 × 25 mm

+

両グルテンの底釣り

●強力集魚&食い気を誘う新エサ ペレットグルテン100cc+水100cc



●作り方

「ペレットグルテン」をボウルに入れて水を加え、指先で全体をかき混ぜて水分を浸透させる。粒のペレットにも水分が沁みるよう4～6分放置。全体が固まったら底から掘り起こしてアアーを絡めてボウルの隅に寄せる。

●特徴

粒状のペレットがへら鮎を底に急速集魚。グルテン繊維がペレットの粒を包み込むように開くので、流れがある河川の釣りでもしっかりしたアタリが早くでる。ナジミ幅はエサの大きさとハリ付けするときの手揉みで行なうだけ。使いやすいのもメリットのひとつだ。

●使い方のコツ

打ち始めは基エサをつまんでハリ付けし、ナジミ幅は指圧を調節するだけで簡単に行なえる。ナジむ前のアタリが多くなったらウワズリのサイン。手の甲で押し練りを1～2回加え、丁寧に丸めたエサをひと回り大きく付ける。練り込むことによりカラツンが目立てば硬めにチェンジ。このときは水100ccに「ペレットグルテン」100ccカップ山盛りで計るといい。

手直しのポイント

寄りが多いとき(新べらの活性が高いとき)

「強力グルテン」をブレンドしてみよう!

ペレットグルテン 80 cc+強力グルテン 20 cc+水 100 cc



● 深いタナや魚影が多い釣り場で効果大 グルテンα21 30cc+ いもグルテン30cc+水80cc



● 作り方

「グルテンα21」と「いもグルテン」をボウルに入れよく混ぜる。水を入れたら指先で素早く20回ほどかき混ぜて3分放置。全体が固まったら指先で底から掘り起こすようにしてエアを絡めボウルの隅に寄せる。

● 特徴

グルテン繊維が強く重さがあるので、深いタナを攻めるときや魚影が多い釣り場に有効。エサをもまれてもハリ持ちがいいので明確な当たりがでる。手揉み調整で浅い底釣りから超深場の底釣りまでカバーエリアは広い。

● 使い方のコツ

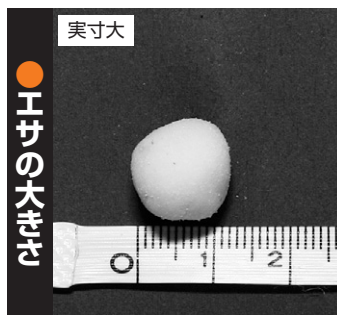
打ち始めはボソツとした感じを活かしながら手の甲で軽く押してエア抜きをする。これを指先で軽く形を整えチモトをしっかり抑えてハリ付ける。ナジミ幅は釣るタナに応じて手揉みで調整。カラツンが目立つようならひと回り小さく付ける。さらに小分けしたエサの上から手水を1回うち手の甲で2～3回押し練りして調整する。

手直しのポイント

抜けを良くして
早いアタリをだしたいとき

「グルテン四季」をブレンドしてみよう！

グルテンα21 を 30 cc+
いもグルテン 30 cc+
グルテン四季 20 cc+
水 100 cc



●寄せタイプとくわせタイプでセット風

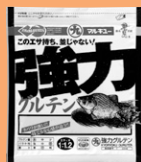
寄せタイプ

新べらグルテン底50cc＋ いもグルテン50cc＋水90cc



くわせタイプ

強力グルテン40cc＋水40cc



●作り方

寄せタイプは、粉のうちに良く混ぜておく。どちらも水を加えたら指先で手早くかき混ぜてボウルの隅に寄せる。寄せタイプは指先で掘り起こすようにしてエアーを絡めておく。

●特徴

寄せタイプは、抜けのいい「新べらグルテン底」と、適度な重さとまとまりがいい「いもグルテン」により、グルテンながら集魚力が強いエサ。くわせタイプの「強力グルテン」は寄ったへら鮎にもまれてもハリ持ちが良く、待ち釣りにも対応できる。

●使い方のコツ

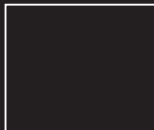
上バりに寄せタイプ、下バりにくわせタイプを付け、セット風両グルテンとして使う。へら鮎が完全に寄るまでは、上エサは大きくハリ付けし、やや角張らせて集魚する。サワリが出始めたら丁寧に丸くハリ付けし、ナジミ幅をしっかりとす。下エサはパチンコ玉よりひと回り小さくしっかりとハリ付ける。

また、へら鮎がはしゃぎ気味の場合は、寄せタイプを「新べらグルテン底」30cc＋「いもグルテン」30cc＋「グルテン α21」30cc＋水100ccにすると底に落ち着かせることができる。

●オモリ 寸寸大



+



水深5m程度の場合
「絡み止めスイッチシン
カー」1.2g + 0.25mm厚
板オモリ 17×20mm

■セッティング

竿●13～21尺
ミチイト●0.8号
ウキ●羽根寸10～18cm ムクトップ
ハリス●0.4号上40cm、下48cm
ハリ●上下5号

●多く寄せて釣るパワー系ブレンド
粒戦100cc+粒戦細粒50cc+
水200cc+底バラ 200cc+
バラケマツハ200cc+鬼バラ200cc



●作り方

「粒戦」と「粒戦細粒」に水を入れて5～6分放置する。そこへ「底バラ」、「バラケマツハ」、「鬼バラ」を入れ、練らずに大きくかき混ぜる。エアーの入ったボンに仕上げること。

●特徴

「粒戦」、「粒戦細粒」、「底バラ」、「バラケマツハ」、「鬼バラ」とすべて縦にバラけるエサのブレンド。ねらう水深の半分ぐらいのラインからバラけだし、抜けた粒子が下方方向へ向かい筒状の煙幕を作り、それに反応したへら鮒を下へ向かわせることができる。

●使い方のコツ

まとまりにくいエサなので、指先で丸める感覚ではなく握るようにしてエサをまとめて圧をかけながらハリをエサのセンターに入れる。落下中からバラけだし、ほとんどナジませないで釣っていく。エサがまとまりにくい場合は「BBフラッシュ」を振りかけてまとめる。

エサを軽めにしたいとき

①「底バラ」を「軽麩」に変えてみよう！

粒戦 100 cc + 粒戦細粒 50 cc + 水 200 cc + 軽麩 200 cc +
バラケマツハ 200 cc + 鬼バラ 200 cc

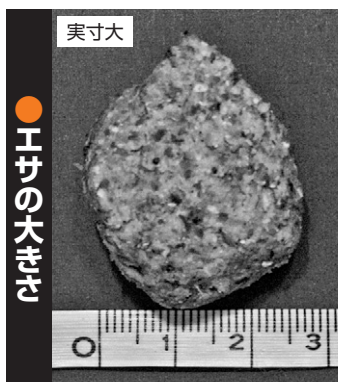


へら鮒が底方向へバラけた粒子を追い切れない、あるいはもっとゆっくりバラケエサをアピールしたいときは、エサを軽くしたい。そこで「軽麩」をブレンドすることでエサの比重が軽くなり、より大きめのエサを使用することも可能になる。

基エサを小分けにして手水を打ちながらナジミ幅を調整する。この釣りは、比較的バラケエサを抜きながら釣るため、ハリ切れが悪いときにはネバリ過ぎと判断して基エサを合体させる

②もっと軽くなら「鬼バラ」を「冬のバラケ」に変えてみよう！

粒戦 100 cc + 粒戦細粒 50 cc + 水 200 cc + 軽麩 200 cc +
バラケマツハ 200 cc + 冬のバラケ 200 cc



「軽麩」に加え「冬のバラケ」がブレンドされたことでヤワしっとりのタッチになり、水中では静かに膨らみながら煙幕状態を作る。より細かく、ゆっくりなバラケを演出できる。

■セッティング

竿● 10～15 R
ミチイト● 0.8号

ウキ●羽根寸5～12 cm
(8～5 mm径) パイブトツプ

ハリス●上0.5号 15 cm
下0.4号 40～50 cm
ハリ●上5号、下4

※パワー系の段差の底釣りは、大きなバラケエサをナジませないで釣る釣り方なのでリスクが大きく注意が必要です。

●激シブ対応

粒戦100cc+水200cc+段底600cc+
セット専用バラケ200cc



●作り方

「粒戦」に水を加えてしばらく放置し、十分に水を吸わせる。そこに「段底」、
「セット専用バラケ」を加えて、全体にムラがでさなよう大きく混ぜる。

●特徴

「粒戦」、「段底」が配合されているので重さがあり、ウワズリを防ぐ。さら
に「セット専用バラケ」が細かい縦方向のバラケで、渋い状況でも着実
に底へへら鮎を呼び込める。

●使い方のコツ

バラケの大きさは親指大。ウキがしっかりと
ナジむようにすることが基本。アタリはウキが
上がってから、くわせのウドンだけの状態での
みねらうこと。その日の活性により、ウキの戻
し方に変化を付けることが大切で、ウキの戻し
方の調整は、エサの大きさ、圧の掛け具合、手
水により調整する。激渋状態なので、アタリも
頻繁にはないことを考え、エサ付けはウキの動
きを見ながら慎重に行ないたい。



手直しのポイント①

少し早いテンポで釣っていきたいとき

「へらスイミー」を追加ブレンドしてみよう！

粒戦 100 cc+へらスイミー 100 cc+水 200 cc+
段底 400 cc+セット専用バラケ 200 cc



洗い地合での段底の底釣りは、どうしてもスローなテンポになってしまう。少しでも早いテンポで釣るには、アタリが増えるようにしたい。そこで「へらスイミー」を加えることにより、底にバラケが溜りやすくなりくわせのウドンに興味を持たせられるので、アタリが増える。また、さらに重さが付くのでウワズリを抑える効果もより期待できる。ハリ付けの際には丁寧にハリ付けをする。余計な動きがまだあるようなら、小さくエサ付けをする。

手直しのポイント②

ウキの動きが悪い場合

「バラケマッハ」を追加ブレンドしてみよう！

粒戦 100 cc+水 200 cc+段底 400 cc+
セット専用バラケ 200 cc+バラケマッハ 200 cc



「バラケマッハ」を配合することにより、バラケ性がよくなるので、ウキに何かしらの動きができるようになる。使う分だけ小分けをして使用したい。バラケエサをくわせのある底に置いてくるイメージで、抜けの良い状態を保つため、ネバリがでないように注意。エサ付けの圧でエサ持ちを調整するが、ウキの戻しが悪いときは手水で軟らかくする。

まずは「段底」

水温低下による食い渋りが避けられなくなる冬。

この時期のへら鮒は、バラケに対して遠巻きになりやすい。

そんな魚に対して、時に圧倒的な強さを見せてくれるのが段差の底釣り。

ハリス段差と同じくして重要な、バラケには、

専用ならではの機能が光る「段底」をおすすめしたい。

ウキのナジミ幅をコントロールできる操作性と、

ウワズリを抑える適度な重さ。

へら鮒をくわせエサへと導く、下方向へのバラケ。

待ち釣りでもアタリを持続させられる強い集魚力。

単品でもブレンドでも使えて、状況の変化にもしっかり対応できる。

段差の底釣り、冬の貴重な「尾を釣るなら、まずはバラケに「段底」を。



●段底 400g

丸マルキュー株式会社

〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4 TEL.048-728-0909

ホームページアドレス <http://www.marukyu.com/>

マルキューへら鮒メールマガジンも、お申込はこちらから。 <http://www.marukyu.com/herabunatengoku/>

釣れるヒント満載!!
へら鮒天国

